

立命館中学校・高等学校 2022 年度 学校目標 年度末報告シート

2023.3.9（木）学校関係者評価委員会

2023.3.17（金）校務運営委員会

2023.3.24（金）合同教員会議

教育目標

～新しい価値を創造し未来に貢献する人を育てる学校～

- ① 自主自立を促す教育：自ら考え、自らすすんで行動できる人（主体性／社会貢献意識）
- ② グローバル教育：世界を視野に、領域を超えて困難に立ち向かえる人（多様性尊重／人権意識）
- ③ STEAM 教育：学びを楽しみ、新しいものを生み出せる人（創造性／科学的探究）

中期目標（上位目標）

- I. 主体的な学びを育む授業づくりと高い基礎学力と探究力の育成（立命館中高の「学びデザイン」の構築）
- II. 人の思いを大切にし、人を笑顔にできる心の育成（立命館中高の「自由と清新モデル」の構築）
- III. キャリア教育・進路指導の充実（中高大一貫教育の環境を生かして）
- IV. サイエンス・STEAM 教育とグローバル教育の推進（21 年連続 SSH 指定とその後の新展開を見据えて）
- V. 生徒の主体性・自主性を育む学校文化の一層の推進
- VI. 教職員の意欲を高め、成長し続ける教員集団としての教員研修の充実と働き方改革の推進
- VII. 安心安全を大切にした学校運営の一層の推進
- VIII. 地域・保護者・卒業生との連携の強化と本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進

I. 主体的な学びを育む授業づくりと高い基礎学力と探究力の育成（立命館中高の「学びデザイン」の構築）

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	ICT も活用した主体的な学びを育む授業づくり	(1) 各教科のコンピテンシーカレンダーとシラバスに基づく理解度の点検とこまめなフォロー	○
		(2) 家庭学習習慣の定着を目指す取り組みの強化（進路指導、個別面談や家庭との協力を軸に）	○
		(3) iPad も活用した双方向性の授業づくりと学力 3 要素のバランスのとれた学びの推進	◎
		(4) 授業評価アンケートの実施と授業改善（前年度からの改善）	○
2	高い基礎学力の形成と定着	(1) 中学校における英語・数学の少人数講座や IT 授業の実施と成果検証	○
		(2) 中学校における個別最適化学習（MANA ヴィレッジ、atama+）の実施と効果検証	◎
		(3) 生徒の意欲を高め、頑張りを励ます指導・評価方法の研究（新学習指導要領）	△
		(4) 高大連携科目や大学入学前講座Ⅰ・Ⅱによる附属校のメリットを活かした接続教育の実施	○
3	探究力の育成	(1) 6 年での探究力育成を見据えた各学年の発達段階に応じた課題研究・探究力育成の推進	◎
		(2) 土曜日を活用したサタデーボックス（教師も生徒もワクワクする新しい取り組み）の実施	◎
		(3) 新カリキュラムにおける教科間連携・教科授業と学年行事と教科教育の推進	◎
		(4) 学外コンクール、課題研究アワード、学会 Jr. セッションなど成果発表機会への挑戦推進	○

II. 人の思いを大切にし、人を笑顔にできる心の育成（立命館中高の「自由と清新モデル」の構築）

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1		(1) 教員による朝の挨拶運動（率先垂範）の年間を通じた実施による挨拶の雰囲気作り	◎

	人を笑顔にできる挨拶の推進	(2)	式典、全校集会、学年集会などにおける「挨拶の意義」の浸透	○
		(3)	モデルクラブを中心とした、礼儀や挨拶面でも率先垂範となる校内リーダーの育成	△
2	世の中をよい方向に導こうとする志（人、モノ、心を大切にす倫理感の育成）	(1)	教学理念である「平和と民主主義」の精神を理解し、国際社会の平和を希求する心の涵養	○
		(2)	人権意識をもち、いじめを許さない学校文化づくり	◎
		(3)	環境美化および学校備品、施設を大切に使う意識の涵養	◎
		(4)	生徒・教職員における多様性理解の推進	○
		(5)	地域交流・社会貢献活動（ボランティア等）の推進	◎
3	校内・校外における社会性の向上	(1)	通学路や駅、公共交通機関における社会的マナーの向上	○
		(2)	オープンキャンパスや文化祭などを通じた「おもてなしの心」の涵養と実践	◎
		(3)	道德の時間等を活用した人権学習の推進	◎
		(4)	学校のルールや法を順守する意識の一層の涵養（成人年齢引き下げに伴う対応）	△

Ⅲ. キャリア教育・進路指導の充実（中高大一貫教育の環境を生かして）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	中学生に対するキャリア教育・進路指導の充実	(1)	（新型コロナによる職業体験中止にかわる）職業や勤労に関する学習機会の工夫	◎
		(2)	将来のコース選択に向けた丁寧な情報提供や個別面談の実施	○
		(3)	立命館大学との「中大連携」による将来の進路や夢を考える機会の創出	◎
		(4)	保護者とともに取り組む子育て講演会等の実施	◎
2	高校生に対するキャリア教育・進路指導の充実	(1)	アカデミックデー、キャリアガイダンス、学部紹介ウィーク等、進路学習の機会の充実	○
		(2)	立命館大学、APU の各学部と連携した高大連携特別講座などへの参加推奨	○
		(3)	生徒・保護者への適切な進路情報の提供とサポート	△
		(4)	医学部を始めとする他の難関大学・海外大学進学希望者への学習指導の充実と進路実現	○

Ⅳ. サイエンス・STEAM 教育とグローバル教育の推進（21 年連続 SSH 指定とその後の新展開を見据えて）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	サイエンス・STEAM 教育の推進	(1)	21 年連続 SSH 指定にもとづくサイエンス教育の一層の充実	◎
		(2)	JSSF や国際共同課題研究の推進と国内の他の SSH 校への成果普及による日本全体への貢献	◎
		(3)	立命館大学理工学部 AIOL と連携した新しい高大連携教育の推進と STEAM 先進校の視察	◎
		(4)	理系人材の育成数の拡大（特に女性の活躍モデルの提示など理系進学への支援強化）	◎
		(5)	理工学部等との連携強化による「次世代型多目的ラボ（STEAM センター）」新設の検討	○
2	グローバル教育の推進	(1)	留学の派遣ならびに積極的な留学生の受け入れの実施	◎
		(2)	RSGF を始めとした海外校との SDGs を軸とした相互交流や研修企画の拡大	◎
		(3)	特色ある海外研修、国内研修の計画と安全な実施	◎
		(4)	グローバル教育を軸とした大学・研究機関・企業との積極的な連携の推進	△

Ⅴ. 生徒の主体性・自主性を育む学校文化の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1		(1)	学校行事・学年行事を軸とした各クラス・学年でのリーダーとフォロワーの育成	○

	生徒会活動を中心とする自主活動の活性化	(2)	文化祭、体育祭の企画運営を軸とした全校規模での自治活動能力の育成	◎
		(3)	学内協議会（高校）、学校懇談会（中学校）を軸とした生徒会執行部の育成と力量向上	◎
2	クラブ活動の活性化	(1)	モデルクラブを中心としたクラブ活動の活性化と応援し合う学校文化への貢献	○
		(2)	教員の働き方改革と連動した、持続可能かつ魅力あるクラブ活動の今後のあり方の研究	○
		(3)	クラブ活動を通じた高大連携・地域連携の推進	○
3	中高各学年・コースの特色ある取り組みの推進	(1)	CE/SS コースにおける「自分たちでつくる」高校修学旅行の計画と実行	◎
		(2)	SSG クラス、GL コース、MS コースにおける研修旅行や特色ある取り組みの充実	◎
		(3)	中学校における宿泊研修の実施を通じた集団づくり、リーダー育成	◎

VI. 教職員の意欲を高め、成長し続ける教員集団としての教員研修の充実と働き方改革の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	教員悉皆研修の充実	(1)	専門家を招聘し、いじめの防止と対策に関わる教員研修の実施	◎
		(2)	iPad やロイロノートをはじめとする ICT 活用推進に向けた教員研修の機会の充実	○
		(3)	公開授業研究会の実施による、よりよい授業研究の推進と附属校・提携校との連携推進	○
		(4)	生徒の規範意識を育む指導とそれを支える教員の指導力の向上（他者への配慮、サービスガイドラインの遵守、ハラスメント等の根絶）	○
2	個々の課題に応じた希望者研修や草の根活動の推進	(1)	ICT 技術向上などを目的とした各教員のスキルに応じたテーマ別教員研修の実施	○
		(2)	新任教諭を対象とした研修機会の充実（校務分掌研修、授業力向上、教師塾参加）	◎
		(3)	学園のグラスルーツ事業を中心とした「草の根」的な教育活動・研究活動の推進	◎
3	働き方改革の推進と生き生きと働ける環境作り	(1)	連続勤務や長時間労働を抑制して働きやすい職場環境づくりの推進	○
		(2)	魅力ある学校・教育づくりと法を遵守した休日確保や働き方改革の両立	△
		(3)	働き方改革ワーキングによる課題の「見える化」と学園とも連携した問題解決の推進	○

VII. 安心安全を大切にしたい学校運営の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	新型コロナ感染拡大防止	(1)	学校医の助言と附属校 BCP レベルを踏まえた、適切な感染拡大防止策の実施	◎
		(2)	宿泊行事（修学旅行等）、学校行事（文化祭・体育祭等）における感染防止策の実施	◎
		(3)	感染者や濃厚接触者への配慮と学習面やメンタル面での支援の実施	○
2	防火防災体制の強化	(1)	全校避難訓練の実施（年間 2 回の避難訓練、及び保護者対象安否確認シミュレーション）	◎
		(2)	自衛消防講習等への教員派遣による自衛消防の有資格者の計画的拡充	◎
		(3)	万一の災害時に備えた備品・飲料水・保存食などの点検と安定確保	○
3	生徒が安心して伸び伸びと活動できる学校づくり	(1)	校舎の安全点検の実施とすみやかな修繕・対応の実施	◎
		(2)	いじめ対策委員会と学年会・生徒支援室で連携したいじめの未然防止と早期発見・解決	◎
		(3)	熱中症をはじめ各種生徒事故などの防止策の共有と発生時の敏速・適切な協力と対応	◎
		(4)	移転から 8 年が経過し、ICT を最大限活用できる各教室・実習室環境の再整備計画の構築	◎
4	小中高連携の推進と生徒支援の充実	(1)	RI2 部長会議（小中高の管理職出席）を軸とした小中高連携と長期的視点での課題解決	◎
		(2)	小中高合同研修会の実施による小中高の教員間の相互連携・理解の一層の推進	○
		(3)	生徒支援室の設置と運用による生徒支援体制の強化（心のケア、学習面）	◎

VIII. 地域・保護者・卒業生との連携の強化と本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）	評価
1	地域連携の推進	(1) 長岡京市と連携した高1コアコースの課題研究の充実（「地域課題」探究プロジェクト）	◎
		(2) 文化・スポーツ活動などを通じた地域への貢献活動の推進（地域から愛される学校に）	○
		(3) 授業、学校行事、クラブ活動等における地域との連携の推進	○
2	保護者・卒業生・教育後援会との連携の推進	(1) PTAと連携した「保護者に生徒の様子を見ていただく機会」の創出の工夫	◎
		(2) 立命館清和会と連携し、卒業生に立命館中高の現在の様子を知っていただく機会の創出	○
		(3) 保護者アンケートの実施と可能な改善策の推進	○
		(4) 保護者に対するていねいで迅速な連絡や応対による学校に対する安心感、信頼感の向上	○
		(5) 教育後援会、卒業生父母の会との連携による生徒の活動支援の充実	◎
		(6) 創立120周年記念事業のコンセプトと全体計画の策定（記念誌、第1ブランド整備計画）	○
3	本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進	(1) 兵庫県をはじめ、新たな受験生エリア拡大を見据えた広報活動全体の強化	△
		(2) 生徒の姿が見えるオープンキャンパスやSNSやアプリも活用した本校志願者層の拡大	◎
		(3) 立命館小学校と連携した小学校保護者・児童が立命館中高の学びを知る機会の拡大	◎

達成状況

立命館中学校・高等学校は、「新しい価値を創造し未来に貢献する人を育てる学校」をミッションとし、創立117年の伝統のなかで大切にされてきた「自主自立を促す教育」を尊重しながら、時代の流れに柔軟に対応して「グローバル教育」や「STEAM教育」への取り組みも強化してきた。その上で、高い学力や豊かな素養を身に付けることに加え「挨拶を中心とした丁寧なコミュニケーションの大切さ」、「自分の利益だけではなく、他者への思いやりの心」、そして「世界の平和とすべての人々の幸せのために貢献していく志」を培っていくメッセージを始業式や全校集会などの機会を通して生徒たちに発信し続けてきた。人としての基盤がしっかりできていて、その上に豊かな個性が花開く学校になっていくことを目指した日々の取り組みの積み重ねにより、生徒たちの明るい挨拶が自然に飛び交う学校になってきている。

2022年度は探究力育成を重視した新カリキュラム導入とともに、土曜日にはサタデーボックスや課題研究発表会、進路学習など生徒の興味関心を引き出す取り組みを行った。とりわけサタデーボックスには多くの生徒が参加し、本校の新たな特色の1つとなりつつある。地域や社会と連携した取り組みも広がり、中2ではフードバンク長岡京との連携によりFood Driveの取り組みを、高1課題研究では長岡京市役所、(株)村田製作所、(株)ネッツトヨタ、(株)大阪ガスとの連携により、社会課題の解決策を探究・提言する取り組みを実施した。文化祭での生徒実行委員会と地域との連携がメディアに取り上げられたことや、長岡京市市政50周年シンポジウムにおいて本校生徒がシンポジストとして登壇したこと、「知の甲子園」全国優勝など、社会からの本校への注目や期待の大きさも感じる1年となった。

また、サイエンス教育やグローバル教育では、今年度は海外との直接交流（訪問、招聘）を再開した。現地の新型コロナウイルス感染状況や医療体制なども検討しつつ、比較的少人数での海外研修を計14プログラム実施した。海外からの受け入れもJSSF2022（Japan Super Science Fair）やRSGF2022（Rits Super Global Forum）等などで再開し、生徒の成長に繋げることができた。このような取り組みが評価され、京都私学振興会から2年連続で学校表彰を頂いた。2月3日（金）にはスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）の成果を普及することを目指して「科学教育の国際化を考えるシンポジウム」を主催した。教育界の多くの皆さまにご参加いただき、有意義な意見交換を行うことができた。また、2023年度からのSSH指定（改革Ⅱ期）の継続指定も頂くことができた。

一方、一人一人の生徒たちに目を向けると、1800人を超える思春期の真っ只中にいる生徒たちの中には、様々な支援やサポートを必要としている生徒も存在する。AIを活用した個別最適化学習ツール（atam+）の導入や、個別学習支援（MANA ヴィレッジ）の実践を進めてきた。さらに2020年度に開設した「生徒支援室」の仕組みを活用し、生徒支援アドバイザーによる支援プログラムに則って、本校のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学教員とも連携し、支援室担当教員や学年の教員でチーム会議や個別支援などを継続してきた。一人ひとりにしっかりと寄り添っていくために、生徒支援室の役割は今後ますます重要になると考えられる。

本校の卒業生の進路先として約 75%が立命館大学・APU へ、約 25%が他大学・海外大学へという傾向が定着しつつある。自由で明るい校風や在校生の様子、特色あるサイエンス&グローバル教育、一貫教育の魅力、多様な進路などが相まって、中学校入試、高校入試ともに多くの受験生に本校を志願していただいている。

働き方改革に関しては、ICT の活用等により改善している部分と、新型コロナのためにこの間中止・縮小していた宿泊行事やクラブの大会等の再開による業務量増加の両面がある。働き方改革の目的は教員の健康を維持・増進し、働きがいのある職場をつくり、結果として学校としての教育力向上につなげることである。教員の健康も守りながら、教員が気持ちよく笑顔で働ける、バランスのとれた勤務のあり方については引き続き検討が必要である。

改善策

新カリキュラムでは、従来以上に生徒の主体的な学びや探究力が重視される。高校においては将来の大学院進学も見据えた探究心の高まる授業づくりに向けた授業改革を進めたい。そのためにも国内海外の先進的な教育に学び、学科での研究を推奨し、ICT も有機的に活用した魅力ある授業づくりに務める。またカリキュラム・マネジメントを駆動させ、教科の授業と課題研究（探究学習）の往還により、自ら課題を見いだして、他者とともに協働して課題解決に主体的に取り組める力や非認知能力を育む教育プログラムの開発に努める。

また、中学校入學段階から生徒間の学力差が大きいことを踏まえ、英語・数学などの少人数講座実施による丁寧な指導に加えて、個々の学習課題に応じた個別最適化学習の試みを 2022 年度に引き続き推進する。立命館小学校との連携・協力も強化し、児童や保護者が中高のことを知る機会を増やし、その児童にとって最適な進路指導を推進していきたい。中高ともにカリキュラムに関しては評価法の検討、中高大院連携の一層の推進などに取り組む。

働き方改革に関しては、何より教員自身が生き生きと笑顔で子どもたちに接し、持続可能な楽しい教育展開をすることが一番重要であることを共通認識として、各教員の知恵を集め、学園とも連携して、よりよいシステムづくりを検討していく必要がある。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	<学校評議員> 片桐 昌直（大阪教育大学 理事・副学長） 帯野 久美子（株式会社インターアクト・ジャパン代表取締役） 武田 浄（株式会社日本電産人事部付部長・京都先端科学大学国際オフィス部長） 千 宗史（茶道裏千家 若宗匠） 駒井 潤（片山家能楽・京舞保存財団事務局長） 木曾 裕（弁護士法人 北浜法律事務所） 山出 洋基（サントリー酒類株式会社 大阪支社第 2 支店営業担当部長、高校女子ホッケー部クラブ指導員） 島田 和幸（京都府 府民環境部 地球温暖化対策課 課長） 孝忠 大輔（日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業部 AI 人材育成センター長、NEC アカデミー for AI 学長） <委員> 東谷 保裕（立命館中学校・高等学校 校長）、伊坂 忠夫（学校法人立命館 副総長） 久野 信之（学校法人立命館 常務理事（一貫教育担当）） 磯野 淳（卒業生父母の会会長）、足立 五郎（PTA 会長）、神蘭 芽衣子（PTA 副会長）、村地 昭子（PTA 副会長） <オブザーバー> 横澤 広久（学校法人立命館 一貫教育部部長）、久保田 一暁（立命館中学校・高等学校 副校長） 白井 有紀（立命館中学校・高等学校 副校長）
開催日程 主な議題	第 1 回 2022 年 6 月 27 日（月） 2022 年度 立命館中学校・高等学校の目標等 第 2 回 2023 年 3 月 9 日（木） 2022 年度 立命館中学校・高等学校の自己評価等
評価・改善 事項	・グローバル教育を進めていく上で、自国の文化をより深く理解し、発信できる素養を身に付ける必要があるのではないか。そのための教育活動を強化すべきではないか。 ・チャット GTP の普及に伴い、教育の内容やあり方があらためて問われるようになる。その上での学校教育の在り方について検討が必要である。

	・ 特性のある生徒への支援を学ぶ研修として、他大学が提供するリソースも積極的に利用してほしい。 ・ 脱炭素社会の実現に向けて、いっそう環境教育にも力を入れてほしい。
--	--